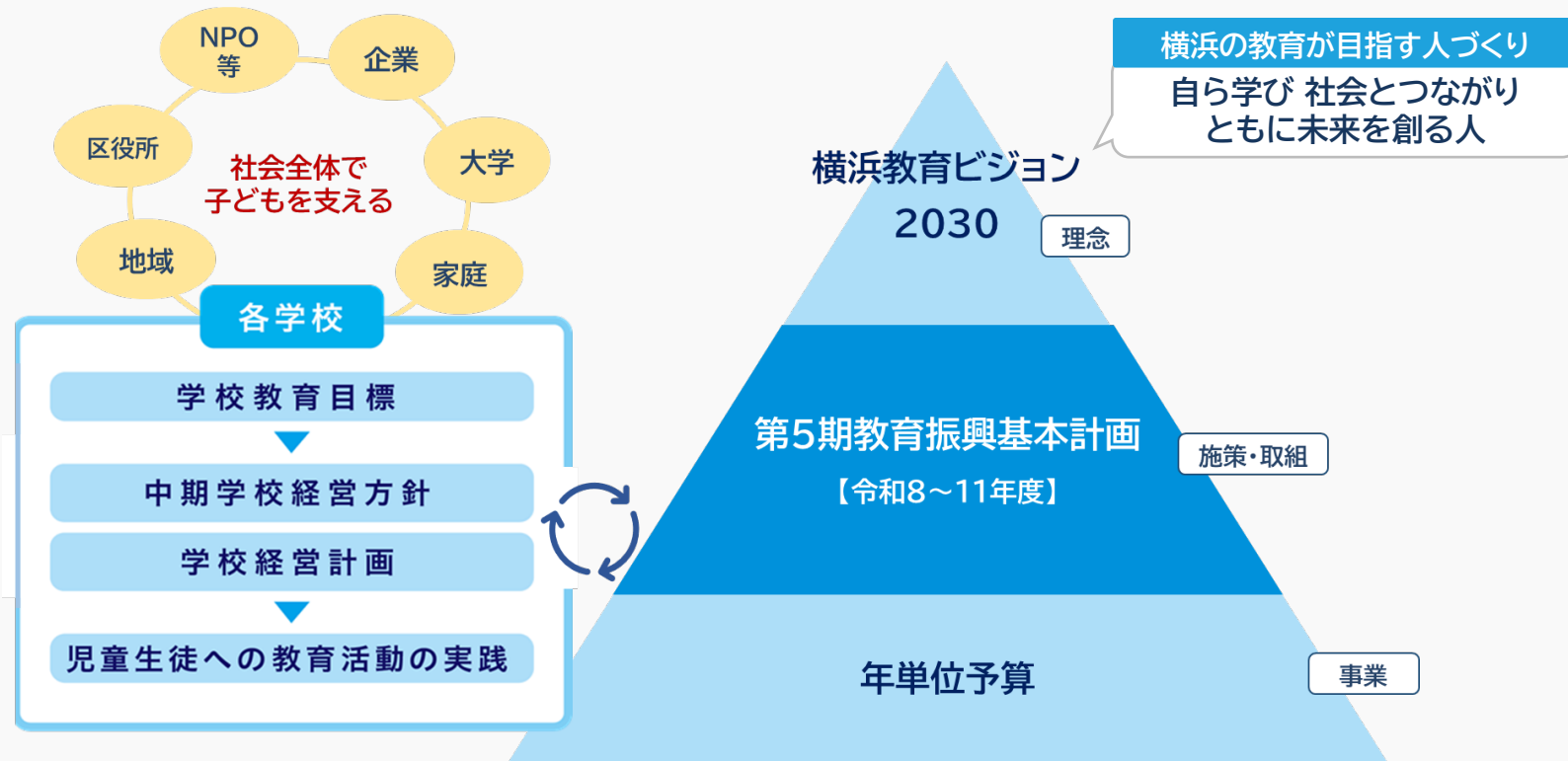


# 令和8年度 教育委員会事務局 運営方針

## I 基本目標

横浜市教育委員会では、市全体で教育の基本的方向性を共有し、実践につなげる計画として「第5期横浜市教育振興基本計画(以下「5期計画」という。)」を策定しました(計画期間:令和8年度から11年度)。5期計画の策定に当たっては、現在策定を進めている「横浜市中期計画2026-2029」※1をはじめ、他の計画と関連する部分について整合を図っています。

横浜教育ビジョン2030で掲げる「自ら学び 社会とつながり ともに未来を創る人」の育成を目標に、家庭・地域・企業・大学等と協働・共創して、令和8年度から開始する5期計画の施策・取組を推進します。



# 令和8年度 教育委員会事務局 運営方針

## II 目標達成に向けた施策

### 1 全ての子どもの可能性を広げる学びの推進

新中期

政策群5 教育  
施策群12 学力の向上

①デジタル学習基盤等を活用し、児童生徒一人ひとりの状況の細やかな把握等を踏まえ、「子ども主体の学び」を実現し、資質・能力を着実に育成します。

【主な事業・取組】

- ・探究的プログラミング教育の推進
- ・生成AIを活用した学びのアシスト機能の試行・研究
- ・横浜独自のAIDリルの開発・導入  
(子どもたちと共に創る学びのきっかけ動画の表示機能など)
- ・チーム学年経営の展開・チーム担任制の全小学校での推進
- ・横浜St☆dy Naviなどを基盤とした、教育ビッグデータの活用
- ・学びの三層空間(リアル・オンライン・バーチャル)の活用



1人1台端末を活用した  
個別最適な学び

②子どもが自身の感情の変化や心の状態を知り、自分を肯定的に認め、自信をもち、価値あるものと誇れることを基礎として、不確実性の高い社会をしなやかに歩めるよう、豊かな心を育成します。

【主な事業・取組】

- ・子どもの心の変化をとらえ、安心な学びの環境を作る「横浜モデル」における心の健康教育の実施
- ・「子どもの社会的スキル横浜プログラム」(「Y-P」)の推進

③子ども一人ひとりが自身の健康と向き合い、心身の健康の保持・増進を通じて、生涯にわたり健康で活力ある生活を送ることのできるよう、健やかな体を育成します。

【主な事業・取組】

- ・中学校における全員給食の開始、生徒の意見を反映した献立作り
- ・安全で安心な給食の提供
- ・不登校児童生徒などを対象とした学校外での定期健康診断
- ・「いのちの安全教育」など健康・安全教育の推進

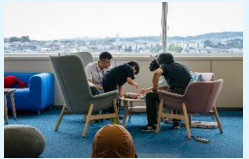


8年度からの中学校給食

④特別な支援が必要、不登校、日本語指導が必要、経済的に困難な状態にある児童生徒などを含め、全ての子どもが、どんなときでも安心できる、柔軟で多様な学びの環境を創ります。

【主な事業・取組】

- ・学習のつまずきや登校不安を抱える児童生徒を支援する特別支援教室活用推進校の拡充
- ・教員の発達障害等への理解促進のための個別支援学級コンサルテーション事業の拡充
- ・スクールバス運行事業(医療的ケアが必要な児童生徒に提供する福祉車両の増加等)
- ・肢体不自由特別支援学校への非常用電源の整備
- ・ハートフルセンター上大岡を起点とした不登校児童生徒の支援の充実
- ・不登校児童生徒一人ひとりの状況に応じた柔軟で多様な学びの機会の確保・充実に向けた検討及び調査研究の実施
- ・不登校児童生徒の保護者支援(保護者の集いやおしゃべりハートフル等の定期的な開催)
- ・日本語指導に関する支援の在り方検討(市内全域へのライブ配信授業等)



ハートフルセンター上大岡

⑤横浜市ならではの小・中学校からの学びの連続性を確保しながら、各市立高校の特色ある教育の充実を図るとともに、今後の市立高校の在り方を検討します。

【主な事業・取組】

- ・「市立高校推進プラン(仮称)」の策定に向けた委託調査の実施
- ・高大連携事業の実施
- ・市立高校長期留学プログラム
- ・海外大学進学支援プログラム(ATOP)の実施



海外大学進学支援プログラム(ATOP)

⑥子ども一人ひとりが、豊かな可能性を開花できるよう、入学や進級などの変化を受け止め、安心と挑戦を繰り返すことができる連続した環境を実現します。

# 令和8年度 教育委員会事務局 運営方針

## 2 ともに未来を創るグローバル人材の育成

新中期 政策群5 教育  
施策群12 学力の向上

①地球規模の課題解決に向け、世界の人たちと出会い、ともに新しい価値を創ることができるよう、異文化と出会う意欲を高め、多様性を尊重し、英語等によるコミュニケーション力や合意形成を図る力を育成します。

【主な事業・取組】

- ・学びの三層空間を活用した国際交流の充実
- ・横浜独自のAIドリルを活用し、学習状況に応じた難易度でコミュニケーションに挑戦できるなど英語教育の更なる充実
- ・市立高校生の長期留学プログラムの開始
- ・横浜グリーンエキスポを記念した短期留学の実施
- ・「よこはま国際平和プログラム」等の国際理解教育の推進
- ・「中学校国際理解教室 SEPro Global」の対象校の拡大



横浜子ども国際平和シンポジウム

②自分の人生を主体的に創り、社会とのつながりを意識して行動し、共創につなげることでできる未来の創り手を育成します。

【主な事業・取組】

- ・横浜グリーンエキスポ関連企業と連携した「はまっ子未来カンパニープロジェクト」の実施
- ・横浜グリーンエキスポを契機としたサーキュラーエコノミー等への取組
- ・学びの三層空間を活用した横浜グリーンエキスポに関する自分たちの取組を世界に発信する機会の創出



横浜グリーンエキスポ関連企業との共創事業



GREEN×EXPO 2027 子ども参画プログラム  
スタートミーティング

## 3 安心して学べる環境づくり

新中期 政策群5 教育  
施策群11 安心して生活できる学びの環境づくり

①子どもの視点を尊重し、いじめをはじめとした多様化・複雑化した課題をとらえ、きめ細やかに対応することで、子ども一人ひとりが安心して学べる学びの環境を創ります。

【主な事業・取組】

- ・1人1台端末等を活用したSCやSSWへの相談申込の仕組み導入
- ・「横浜モデル」におけるこころの不調の傾向分析、家庭・医療機関等と連携した支援の実施
- ・対面では話しにくいSOSを捉えるために横浜St☆dy Navilに相談の入口を新設
- ・「横浜子ども会議」等の子ども主体によるいじめ防止の取組
- ・いじめの重大化・長期化につながりやすい事案の要因分析・共有
- ・速やかに専門家を交えた支援につなげるための「いじめ対応情報管理システム」の改修



## 4 社会全体で子どもを支える教育の推進

新中期 政策群5 教育  
施策群10 教育環境の整備

①子どもの学びや体験を充実させ、地域の担い手としての意識を高めるため、学校と社会がつながることで、子ども一人ひとりを守り、地域全体で支えます。

【主な事業・取組】

- ・校庭夜間照明のLED化
- ・校内インターホンの全校設置

②学校が、福祉・医療機関などと連携・協働することで、多様化・複雑化した課題等に対応し、子ども一人ひとりを守り、支えます。

【主な事業・取組】

- ・医療的ケア児・者等支援促進事業、こども・若者の自殺対策強化チームの設置

③保護者が家庭教育を安心して行えるよう、家庭の孤立を防ぎ、子ども一人ひとりを守り、支えます。

【主な事業・取組】

- ・不登校の悩みや支援に関する保護者の相談窓口となる「ハートフルコンパス」の実施

# 令和8年度 教育委員会事務局 運営方針

## 5 子どもたちの学びを支える魅力ある教職員 新中期 政策群5 教育 施策群13 教職員

①教職員の「養成・採用・育成」を一体としてとらえ、教職員がいきいきと働き、学び続けられる環境づくりを進めるとともに、教職の魅力を積極的に発信し、横浜の教員を目指す学生等を増やします。

【主な事業・取組】

- ・学生主体による教職の魅力発信
- ・教職員、大学、企業、教員志望の学生等の多様な主体の共創を促す場である横浜教育イノベーション・アカデミアの推進
- ・学びの三層空間を活用した交流・研修の試行実施



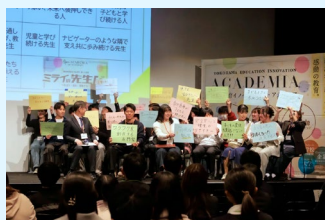
横浜ならではの教育、教職員や学校の魅力を発信  
◀公式note「ココエデュ!」



【横浜教育イノベーション・アカデミア ミライの先生Fes】  
児童生徒、大学、企業、そして教職を志す学生など、約600人がつながり、横浜発の先進的な教育の取組に触れながら、未来の学びについてともに考えました。



メタバース体験ブース



学生と語る「これからの横浜の教育」

②働き方改革により、教職員に時間的・心理的な余白を生み出し、教職員がいきいきと働き、学び続け、心身ともに充実した状態で子どもたちに向き合える環境を整えます。

【主な事業・取組】

- ・チーム担任制の全小学校での展開、英語指導助手の配置拡充、部活動指導員等の充実などチーム力の強化・外部人材の配置
- ・校務クラウド基盤の機能拡充、次世代校務支援システムの整備への着手、横浜独自のAIドリルの導入、学校への提出書類のデジタル化など校務DX等の推進
- ・学校への過剰な苦情や不当な要求への対応、録音等機能付き電話及びAI文字起こし機能の順次導入など業務の適正化

## 6 子どもたちの学びを充実させる学校規模と学校施設 新中期 政策群5 教育 施策群10 教育環境の整備

①人口減少や大規模開発等による人口急増地域への対応など、学校規模の適正化について検討を進めます。

②安全・安心を確保しつつ、学校施設の老朽化対策と機能充実を計画的に進めるとともに、脱炭素化やバリアフリー化など、地域防災拠点としての機能強化を図りながら、より良い教育環境の整備を推進します。

【主な事業・取組】

- ・酷暑対策として最上階の教室を対象とした断熱改修
- ・体育館空調設備の整備
- ・給食室空調の本格的な整備着手



天井:高性能ガラスワール



体育館空調設備

## 7 市民の豊かな学び 新中期 政策群8 暮らし・コミュニティ 施策群12 学び・交流を支える地域の情報拠点

①だれもが生涯にわたり主体的に学び続けられるよう、図書館や博物館など多様な学びの場を整え、デジタル技術も生かしながら、学習活動や体験の充実を図ります。

【主な事業・取組】

- ・図書館サービスの充実

②変化し続ける社会に対応し、新しい時代を創ることができる図書館であり続けるため、市立図書館全体の枠組みを再構築し、デジタル技術も活用しながら、サービスの充実とアクセス性向上を目指します。

【主な事業・取組】

- ・地域図書館の老朽化対策(再整備・リノベーション)
- ・図書取次拠点の増
- ・のげやま子ども図書館「こどもフロア」の整備
- ・新図書館整備基本計画の検討

リノベーションイメージ



ブックス&ラウンジ(仮称)イメージ



「Book Lounge Kable」(平和不動産株式会社)

## Ⅲ 目標達成に向けた組織運営

### 1 教育委員会版3ラインモデルの推進

児童生徒約24万人、504校を擁する巨大組織におけるガバナンス強化を図るため、令和7年度に整備した「教育委員会版3ラインモデル」を基盤として、組織体制の強化や専門的知見の活用により、情報共有と連携の強化、リスク管理とコンプライアンスの徹底を総合的に進めます。

- ・組織体制の強化: 学校教育事務所の統括部署、教職員人事に係る制度企画担当(不祥事防止等)、学校教育事務所にリスク管理・コンプライアンス担当として「副所長」ポストを新設 など
- ・専門家連携: 法律・心理・福祉・行動経済学等に係る専門的知見の活用 など

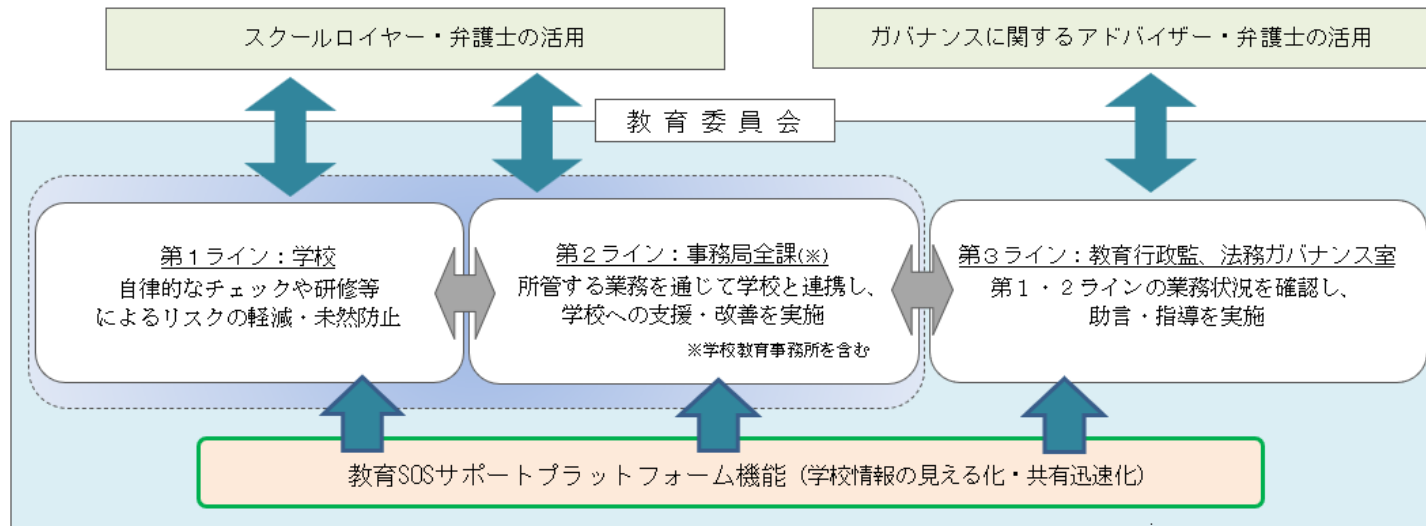
### 2 全方位的なコミュニケーションの活性化

心理的安全性とエンゲージメントが高く、風通しの良い職場づくりを推進します。

民間企業のパーパス経営等の手法を参考に、教育委員会事務局の全職員が大切にしている価値(心理的安全性を土台にした「誠実」と「挑戦」)を明文化した「Yokohama Edu-Value」を策定し、これを拠り所に、トップダウンやボトムアップだけでなく、ミドルマネジメント層による建設的な対話の促進も含めた、全方位的なコミュニケーションの活性化策を進めていきます。

- ・B-up(ボトムアップ)プロジェクトの推進(職員同士、学校・事務局間の交流促進、課題解決の機会創出等)、責任職向け心理的安全性研修・不祥事防止研修の実施 など

【教育委員会版3ラインモデルの概略図】



【Yokohama Edu-Value(教育委員会事務局の全職員が大切にしている価値)】

